

第9回多治見市第7次総合計画策定市民委員会 会議録

日 時	平成27年9月3日(木) 午後6時00分～午後8時10分
会 場	多治見市役所駅北庁舎 4階第3会議室
出席委員	古池嘉和委員(会長)、木下貴子委員(副会長)、飯野真理子委員、伊藤浜三委員、奥村崇仁委員、隈元智子委員、小池雅子委員、竹本幸二委員、堀尾憲慈委員、前田市朗委員、宮村登美子委員、山田輝幸委員、若尾由美江委員 (委員15名中13名出席)
欠席委員	宇佐見信一委員、吉田有記委員
事務局	水野企画部長、桜井企画防災課長、岩島課長代理、長谷川課長代理、水野総括主査、山内総括主査、御前主査、林主査
傍聴人	2名

会議録要旨

1 開会あいさつ(古池会長あいさつ)

2 議題(1): 第8回市民委員会会議録(案)について

事務局 資料1「第8回市民委員会会議録」について事務局から説明
 会長 修正すべき点等あれば指摘を求める。
 《なし》
 会長 第8回市民委員会会議録とする。

議題(2): 基本構想(案)について

事務局 基本構想(案)について、資料2を用い事務局から説明
 委員 政策の柱 (1) 安心して子育て・子育てするまちづくり
 「子育て」は造語だが、それを加えた経緯は何か。
 事務局 多治見では以前から大人を主体とした「子育て」だけでなく、子どもを主体とした「子育て」を進めてきた。その趣旨を表すために、「子育て・子育てする」とした。
 会長 「人財」も同様に造語だが、括弧書きで記載されている。括弧書きがとれるのは市民権が得られた場合だが、多治見において「子育て」はどうか。
 事務局 「人財」は誤字と誤解されるため括弧書きで表している。また、多治見の行政計画で「人財」を使うようになったのはこの数年である。一方、「子育て」は子どもの権利の計画で十数年使われているため、括弧書きでは表していない。
 委員 子育て・子育て「する」では、勝手に育つようなイメージを持つ。「できる」の方が適切ではないか。

事務局 「子育て」は言い換えれば自立であるため、「できる」ではなく「する」が総合計画の政策の柱として適切と考える。

なお、「子育て」や「人財」などの造語や、行政用語などについては、※印を用いて説明書きを加えるので、読んでいただく市民にもわかりやすい工夫を考えている。

会長 今後8年間の市政運営に「ひとの“わ”」が加えられたことも、中心市街地のみを考える「コンパクトシティ」ではなく、人がつながる「ネットワーク型コンパクトシティ」となったことも市民委員会の成果と考える。市民委員会の意見が最大限反映された基本構想になったと考える。

議題（3）：基本計画（素案）について

事務局 基本計画（素案）について、資料3を用い事務局から説明
市議会特別委員会での議論経過について、資料4を用い事務局から説明
委員 「ネットワーク型コンパクトシティ」の表現だが、最初の案では「多治見型コンパクトシティ」であったが、なぜ変えたのか。

事務局 中心市街地に集約することのみをイメージさせるコンパクトシティではなく、都市機能を中心市街地へ集約し、郊外地域と中心市街地を結ぶ公共交通を充実させる多治見独自のコンパクトシティを実施するため、「ネットワーク型」の方がイメージしやすいと考え変更した。

委員 窯業原料が不足していると聞いたことがある。市議会の議論で「窯業原料の確保」として、基本計画に掲げる必要があると議論されているが、窯業原料はどのような状況か。

事務局 討議課題集にあるように、窯業原料の確保については課題と認識している。窯業原料の確保については、美濃焼産地全体の問題であるため、広域で行っている。内容としては、美濃焼未来会議で、窯業原料組合・陶磁器工業組合・陶磁器卸商業組合など、美濃焼の原料確保から、製造、販売までを行う業界関係者が一堂に会し、美濃焼産地の課題を共有することを始めた。

会長 広域事業は総合計画に含まれないか。

事務局 政策の柱 ④ 安全・安心で快適に暮らせるまちづくり

施策 消防・救急体制の充実

基本計画 通信指令業務の広域運用を東濃5市で研究します
にあるように総合計画に含まれている。

委員 第7次総合計画は、12月議会で議決後、どうなるか。

事業実施の中に、市民委員会の意見がどう反映されたかわかる方法はないか。

事務局 基本計画事業だけでは、実際に市が行う事業内容がわからない。また、いつ事業実施するかもわからない。そのため、1年毎の事業内容を記載し

た実行計画を作成する。

この実行計画は、事業評価委員会という市民による委員会で、毎年度進捗管理をしていただいている。現在の第6次総合計画の事業評価委員会には、第6次総合計画の市民委員会の中から委員になっていただいた方もいる。事業評価委員会の人選はこれからだが、公募も行うため、事業評価委員として第7次総合計画に意見を入れていただくことも可能である。

委員 例えば、第7回の市民委員会のグループワークで提案させていただいた、公職選挙法の改正により参政権が18歳まで引き下げられることに対応した教育はどこに載っているかなど、基本計画事業の内容について、実行計画を見れば確認できるということか。

事務局 参政権に係る教育については、教育内容の詳細を決める教育基本計画等に委任されるものであり、直接総合計画には載ってこないが、基本計画事業の内容については、実行計画を見れば確認することができる。

委員 優先順位はどのようか。

事務局 優先度は、総合計画に掲げられた全ての事業が1番であり、全ての事業を実施する。

会長 多治見市の総合計画は実行実現型であり、全て行う事業と理解している。

3 第7次総合計画策定までのスケジュールについて

事務局 第7次総合計画策定までのスケジュールについて事務局から説明

会長 何か質疑はあるか。

《質疑なし》

4 その他

会長 市民委員会の議論は最後となる。各委員の感想や今後の多治見に期待することなどを発表いただきたい。

委員 国のまち・ひと・しごと創生総合戦略では、女性を労働力に加えながらも人口も増やしていくことを考えている。多治見の場合、女性の労働実態や子育ての状況、またその関係など多治見独自の調査を実施していただきたい。その結果で多治見にどんな人を呼び込むことができるのか、どんな支援をすることで子どもを産むことができるのかがわかる。

第7回グループワークでも意見を出したが、観光のモデルコースを作ってほしい。

委員 市民討議会で市長に意見書を提出した。その際、市長が提言を見て、既に実施している事業が半分、これからやる事業が半分だと言われた。これが無作為抽出の市民から出た意見ということは、市の事業が市民に伝わっていない。もっと上手にPRを行ってほしい。

委員 総合計画の策定にあたり、市と市民の取組を評価している。市民委員会に参加することで、市の事業を知ることができ、愛着も湧いた。

委員 多治見に住むことを誇りに思い、自分の子どもが多治見に住みたいと言ってもらえるまちになってほしい。「多治見らしさ」をどんどん出していく行政運営をしてほしい。

委員 国や他の自治体も子どもを育てる事を重要なことと捉え始めた。多治見は昔から子育てしやすく、多治見で子育てができたことをうれしく思う。また、これから高齢になってからの生活にも希望が持てる。多治見が好きと思いきり暮らしていけることが幸せと思えた。

委員 5つの政策の柱が実現すれば日本一のまちになると思う。ぜひ、実現してほしい。

委員 公民館活動は、生涯学習だけでなく、高齢者支援、地域防災、子育て支援などの役割を果たしている。

これから重要度を増す地域力のためにも、指定管理者制度のあり方を検討いただけないか。

総合計画を今後も見守っていききたい。

委員 市民委員会に参加し、行政について再認識できた。また、普段使っている公共施設でも、違った使い方ができるのではないか、などいろいろな視点で見ることができるようになった。

今後も、ぜひ、行政への市民参加を進めてほしい。特に、未来提言会議のような高校生など子どもが参加できる市民参加も行ってほしい。

多治見のために熱く議論する職員がいたことはうれしく思えた。

委員 総合計画の実行を見守っていききたい。

多治見にはいいところが多数ある。しかし、点から線に、点から面になっていない。

行政は縦割りだと感じていた。市役所に相談に行くときにどこの部署に行くことがいいのかわからなかったが、市民委員会では幅広い質問に対し、すぐに回答がいただくことができた。今後は、どこに相談しても案内していただけると感じた。

PR不足という話もあったが、広報紙には多くの情報が入っている。広報紙を読んでいただく啓発活動が必要ではないか。

委員 産業支援と行政の支援がマッチしていないと感じた。多治見に住んでいくためには職が必要である。会社を経営する者として、多治見の職を支えていきたいと思うので、行政と連携を進められたらよいと思う。

委員 市民委員会に参加し、いい経験ができた。しかし、今となればもっと意見を出したいこともある。多治見市民として今後も行政運営に協力していきたい。

委員 市民委員会に女性の視点、子育て中の視点、働いている視点、障がい者支援を行う視点から参加し、意見を出せ、自分も学ぶことができた。

多治見のいいところを知ることができたが、課題も見えてきたと思う。第7次総合計画では、結婚支援があるが、障がいがある人も結婚をしたいと考えているが、行政の窓口に行けるのか。障がいがある人は、親が亡くなれば一人で生きていくのか。不安を感じる。

様々な分野で多くの課題が見えたが、課題は全てつながっていると思う。分野間をつないで問題解決できると良い。

会長 形式的な市民参加をする自治体もある中で、行政と市民が同じ土俵で議論できた市民委員会に参加できてよかった。第7次総合計画では「ひとの“わ”」や「多治見らしさ」を進めていただきたい。

行政計画に市民が関心を持っていただくために、第7次総合計画を市民が読みたくなるようなものにしていただきたい。

事務局 10月14日に市長に今いただいた意見など第7次総合計画についての意見を伝える場を設ける。ぜひ出席いただきたい。

<会議終了>